

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1982 2・3

「国際デザイン・フェスティバル」と決定

すでにお知らせしてありますように、「国際産業ビエンナーレ」展の正式名称が標題のように1月28日の理事会で正式決定された。そして、事業は以下の2つを中核に、併せてデザイン展を行うことになる。

・国際デザイン・フェスティバル (INTERNATIONAL DESIGN FESTIVAL, OSAKA)

① 国際デザイン・コンペティション (INTERNATIONAL DESIGN COMPETITION, OSAKA) — デザイナーを対象に国際的にあらゆる分野での新デザインを募集、審査する。

② 国際デザイン・アワード (INTERNATIONAL DESIGN AWARD, OSAKA) — 既成の優れたデザイン製品やデザイン向上に寄与した個人、団体に賞を贈る。

特に①のデザインコンペは賞金総額2,000万円を予定した、内容豊かなものが計画される。事業主体である財団法人国際デザイン交流協会では、1983年10月の表彰式、展示会を目指し鋭意進行中である。

現在までに明らかにされているスケジュールは、57年3月に応募要領発表、58年2～3月頃予備審査、8月に本審査、10月に受賞者発表となっている。

● 「国際デザイン・フェスティバル」と決定	1
● 56・第5回理事会議事録	2
● 1982年JID新春交礼会報告	3
● 「'82作品展」と「永井コレクション展」を計画中 ..	5
● ブロック別デザイン会議	6
● 国際デザイン・フェスティバル・シンボルマーク募集	6
● 第3回インテリア産業セミナー報告	6
● 「税の懇話会」報告	8
● 九州支部活動報告	8
● 豊口先生の絵を頂いて	9
● 会員の消息	10
● 事務局短信	14

同協会ではこのスケジュール発表を1月28日午後6時より、大阪コクサイホテルでの同協会設立記念式典で行ったもので、JIDからは三輪理事長代理として泉副理事長が、そして在阪の川崎、樋口、富田各理事はかも出席した。式典での挨拶の中で、同協会佐伯勇会長は「日本を取巻く国際環境が厳しい中でもあり、文化交流としてコンクール事業を世界に呼びかけるのは意義深い。このフェスティバルがデザイナーの登竜門として、あこがれを持たれるだけの格式あるものにしたい」と述べ拍手を浴びた。

また、席上大島大阪市長は「大阪城公園内に市が建設を計画中である東洋一の規模となるであろう屋内施設、国際スポーツセンターを予定している。市議会の計画承認を待って58年秋の開催に間に合わせたい」と明言した。

尚、JIDの会員の中、三輪正弘の理事のほか、川崎浩、白石勝彦、中村圭介、樋口治、渡辺優の各氏が運営委員会又は実行委員会にそれぞれ参加しているので、これからも詳細は「JID NEWS」などで報告して行くことになると思います。(文中敬称略)(事務局)

・(財)国際デザイン交流協会(佐伯勇会長)

〒541 大阪市東区船橋中央2-2

船場センタービル4号館

電話 06(271)5211~3

56・第5回理事会議事録

日時 昭和57年1月20日(水) 2:00~5:00PM

場所 東京有楽町グリルトーキョーBF会議室

出席者 理事長 三輪正弘

副理事長 泉修二

名誉理事 岩瀬要三

理事 榎田均、木村戦太郎、垂見健三、
中村圭介、樋口治、松本政雄

監事 渡辺(力)

(委任状) 川崎浩、坂本康四、白石勝彦、
長大作、富田卓司、長岡貞夫、
渡辺(優)

はじめに議事につき、三輪理事長より説明あり、泉副理事長補佐にて、報告事項より審議に入る。

I. 報告事項

① 次年度(57~58年)役員選挙結果報告

昨冬12月10日に開票が行われ、その結果が選挙管理委員会(工藤広忠委員長)より報告書の形で提出された。事務局長が工藤委員長の代行で内容の説明を行ない報告した。次年度役員予定者は以下の会員となった。(得票順に列記)

・理事予定者(当選者):三輪正弘、中村圭介、泉修二、山品元、島崎信、渡辺優、木村戦太郎、森谷延周、尾上孝一、川上信二(以上、関東事業支部10名)

川崎浩、樋口治、富田卓司(以上、関西事業支部3名)

中川千年(九州事業支部1名)

宇賀敏夫(中部事業支部1名)

・監事予定者(当選者):渡辺(力)(関東事業支部より1名)

岡村実(関西、九州、中部事業支部より1名)

尚、報告書の全文は「JID NEWS」(1982年1月号)誌上に掲載、会員に報告の予定となっている旨、事務局長より補足説明がなされた。

② 「東京を美しくする会」設立に参加

56年12月22日(水)、東京の建築家会館1階ホールに付記の団体の長を中心とした集會が持たれ、標題の會が発足することとなった。JIDからは三輪理事長、川上(鈴)渉外委員長、大野、中田両渉外委員、山品事務局長の5人が出席した。翌23日には、同じく東京の日本プレスセンターで記者発表を行った。これの設立機運は昨秋のヘルシンキ国際デザイン會議で、現地に出席した人々の間で話がすでに持ち上っていたものを、發起人亀倉雄策、栄久庵憲司、芦原義信の三氏が發起人の形で集會を呼びかけたものである。

集會では東京の景観についての問題点提起など活発な意見が出、また代表幹事に亀倉雄策氏を選んだ後、各団体の長を幹事をお願いすることとなった。事務局はGKインダストリアルデザイン研究所内におき、担当は藤本清春氏、また各団体間の事務連絡は各事務局が行うことを決定した。2月10日には第2回の會議が予定されている。

付記:当日の参加団体、(社)日本インテリアデザイン

一協会、㈱日本建築家協会、日本サインデザイン協会、日本グラフィックデザイナー協会、

翌日よりの参加団体：㈱日本店舗設計家協会、日本ディスプレイデザイン協会（以上7団体、順不同）
尚、この件に関連して、松本理事より一昨年発足した「名古屋都市景観懇談会」について発言があった。

③ 財政報告

- ・『インテリアマップ500'81～82』の頒布が11、12両月で64冊にのぼった。
- ・未収会費（56年度以前）の納入状況はあいかわらず芳しくない。2月に準会員を含め督促を行う予定。
- ・1月18日の金融利子改訂に先立ち、1月14日定期預金の組替えを行った。
- ・各事業支部の財政報告を次回理事会で行う。

以上の点の他、細部にわたる報告が配布資料により事務局長より為された。質疑についても補足説明が行われ理事会はこれを了承した。

また、監査については2月初旬に行ない、次回理事会に報告することで了承された。

④ 新春交礼会出席申込状況

ここ数年来盛りあがりを見せているが、本月も80名を超える申込があり、本日（1/20）夕刻の盛会が予想される。総務委員会担当で、新入会員、賛助会員紹介の他地方の事業支部よりの出席会員の紹介も併せ行う予定。

また、多数の景品寄附の申出が賛助会員から為されており、恒例の福引きも行なう。会場の糖業会館のインテリアについては今井三郎会員からの資料提供があり、詳細が説明できる。以上、中村総務委員長より報告された。

⑤ 第3回インテリア産業セミナー受講申込状況

泉副理事長より現在の受講申込状況は1月20日現在で15名と報告された。開催日まであと1週間を余すのみなので、理事各位の強力な協力が要請された。

Ⅱ. 議 題

① 第14回通常総会準備について

事務局長よりスケジュール案の提出があり、それを中心に以下の骨子を決定した。

- ① 総会は東京での開催とし、会場は事務局で打診す

る。期日は5月28日（金）を予定する。

- ㊤ 協会賞授賞式、祝賀会は例年通りの計画とする。

- ㊦ 事業報告案、決算報告案の叩き台を事務局で起案。
また、理事予定者会議、新委員長予定者連絡会を通して事業計画案、予算案を固めて行く。

- ㊧ 56・第6回理事会で原案作成。

また、事業計画案、予算案の起案に当って、㊦支部事業の活性化や、事業活動の裏付けとなる財源の基本解釈。㊦単年度での計画、予算でなく、重点的継続的事业の促え方。㊦中部事業支部に於ける北陸地区での事業展開。㊦野口記念事業などを中心に数々の意見が開陳された。

② 矢村勇・大内一雄両会員の病氣

かねてより受理されていた両氏の「病氣診断書」が事務局より提出された。これについて理事会は会員規定第8条第2項に当たるとして、当該期間の会費免除を承認した。

③ 入会関係

氏 名	種 別	推薦者（紹介者）
高 瀬 守 博	正 会 員	藤村盛造・館野羊一
田島応用化工㈱	賛助会員	（紹介者）山本其観代

以上の件につき資料に基き審議が行われ、いずれも承認された。

今回は57. 3. 23（火）の予定。 （以上）

1982年JID新春交礼会報告

恒例となった新春交礼会が去る1月20日（水）本部事業で開催されました。今年は一昨年、昨年と続き、さらに出席者の記録を伸ばしました。

定刻午後6時、山品事務局長から開会が告げられ、総務委員会から中村（圭）委員長、増本委員等2人の進行係で会は進行した。

先ず三輪理事長の挨拶は昨年来よりの事業概況の報告に始まった。特に昨夏8月のヘルシンキ国際会議の模様、通産省内のデザイン化推進事業でのワーキング・グループの活動などに加え大阪産業デザインビエンナーレ展や大阪デザイン団体連合の誕生母体になったことにも言及した。一方、東京での「東京を美しくする会」の発起団体になるな

ど、その活動の範囲は広がりを見せて来ているので、会員のより一層の理解と協力が望まれる、と結んだ。

続いて、関西支部所属の樋口理事により乾杯の音頭がとられ、出席者全員本年の健康と活躍、J I Dの益々の発展を祈って乾杯した。樋口理事からも関西支部の活動状況の報告と本年の抱負が述べられた。



その後暫時歓談のあと、事務局長より下記の来賓3氏の紹介が為された。

① ㈱日本店舗設計者協会（奥脇専務理事）

② ㈱六耀社（橋本専務取締役）

③ ㈱コーヨー・エンタープライズ（伊原専務取締役）

④の団体は従来より三会合同シンポジウム（J I D, J C D, dda）などで友好を深めて来た相手であり、②は昨年7月、『日本のインテリアデザイン——光とのかかわり』としてその発刊に尽力された出版社であること、ま

た、③は矢張り昨年初冬刊行した『鈴木三三スケッチ集』の製作にご協力いただいた企業であることが説明された。

続いて、新入会員の中、出席された村山勝彦氏を推薦者の一人山岸征史さんが、そして牧野滋氏を同じく中村圭介さんがそれぞれ紹介した。

賛助会員（20社）については、事務局長より皆さんに紹介を行った。（出席会員は末尾に記しました）。

地方支部からの出席会員については、関西支部を樋口理事が、中部支部を宇賀支部長が、それぞれ支部の活動状況を織りまぜながら行った。

・関西支部出席会員——藤川宏允

・中部——松本政雄（理事）、栃谷賢一

進行係の巧みな運びで、アトラクションの福引きに移った。景品は当日出席の賛助会員各社に製品などを中心に、積極的にご寄贈いただいたもの多数である。個人会員からも、豊口克平、岩瀬要三、桜井定雄の3名誉会員を初め、渡辺力監事のお骨折りで㈱ダイチの製品や、高田紀久枝、鈴木栄二両総務委員からも心の暖まる景品が寄せられた。景品多数のため、㈱大丸のご好意で用意された紙袋に福袋よろしくつめ合せの景品も混じり、皆さん今年の福試しを行った。さて、何が一番の特賞だったでしょうか。

終盤は泉副理事長の音頭で手廻を行ない、出席者それぞれ再会を約して定刻通り散会。今年もがんばりましょう。

（総務：山品）

（後記）

① 当日の出席数90名（うち関東以外の支部より8名）

② 理事長を含め、理事8名（三輪正弘、泉修二、榎田均、樋口治、松本政雄、垂見健三、中村圭介、長大作）

③ 名誉理事（岩瀬要三、豊口克平）
名誉会員（桜井定雄、工藤広忠）

④ 賛助会員20社（カッコ内は出席者、受付順）

コクヨ（田中兵衛）、スナバ産業（砂庭鉄雄）、
㈱内田洋行（近藤明夫）、常盤レザー工業（高橋秀明、安田恵久）、大成建設（相沢徳吉）、住江織物（細井一夫）、㈱サンゲツ（田中三千春）、㈱トミタ（富田順三）、㈱カワキチ（吉田恵次）、㈱高島屋東京支店（渋谷貞）、㈱天童木工（桜井久喜）、㈱青島商店（青島賢治）、ヤマギワ（角田正信）、
㈱大丸装工事業部（石村昌男）、東陶機器（小林一郎）、

西和インテリア(株)(肥田武), ミサワホーム(株)(横山英俊), (株)商園(藤原義弘), (株)イトーキ(鈴木泰尚), (株)コスガ(榎田均) 以上敬称を略しました。ご寄贈品については誌上より重ねて篤く御礼申し上げます。

(事務局)

「'82作品展」と「永井コレクション展」を計画中心九州事業支部

九州支部で計画中心の表題の展覧会は、昨冬から支部実行委員会、役員会で検討が加えられていますが、下記のようにその骨子が本部に寄せられました。これから本格的に細部のツメが行われて行くと思います。中間の計画案ということでごらん下さるように、との九州支部事務局の溝口会員からの連絡です。

記

● '82' 作品展案

- ・テーマ '82'九州事業支部作品展
- ・パンフ・ポスター ハガキ形式の案内状とする。ポスターは作成しない。但し会場に期間中掲示板を設置する。広報機関利用。
- ・場所 福岡市美術館A・B・C・Dの各市民ギャラリー(中央区大濠公園1~6)
- ・日時 58年10月下旬~11月中旬程度の6日間開催予定。
- ・出品要領
 - 主旨 J I D会員の日常活動の成果を発表し、会員相互の研鑽を計ると共に地域のインテリア・デザインの発展に資することを目的とする。
 - 資格 J I D九州支部会員及びJ I D会員
 - 出品内容 家具を主体とし、その他生活用品とする。
 - 出品点数 点数に制限は設けない。但し1人10㎡(約3坪)ぐらいの展示スペースとする。
 - 出品申込締切 3月末日(出品作品図面提示)~4月末日か?
 - 出品作品 スポンサー名の表示等、出品者以外の表示は出来ません。また作品は非売品となります。(但し製作者名は表示したいと思いま

す)

- その他 搬入搬出及展示のための一部経費など、諸経費については出品者の負担とする。(本部及支部としても予算化出来るだけの補助が出来るよう計画したいと思います)

● 運営委員 地区別に委員をお願いすることになりました。

- 日田地区 石井信義氏(日田産業工芸試験所)
- 大川地区 松岡宇六氏(松岡漆工KK)(宮崎、長崎地区含む)
- 北九州地区 堤 久夫氏(堤デザイン工房)(山口地区含む)
- 福岡地区 香月寿一氏(岩田屋産業KK)
- その他 永井敬二氏()永井コレクション展の関係上

支部役員(坂本支部長、篠島・山永総務委員、中川・溝口広報委員。

● 永井コレクション展案

- ・'82'九州事業支部作品展と平行して、永井氏のコレクション展を九州事業支部の行事として実施する。
- ・場所 福岡市美術館A・B・C・Dの各市民ギャラリー(中央区大濠公園1~6)
- ・日時 58年10月下旬~11月中旬程度の6日間の予定(九州事業支部作品展と同じ開催とする。)
- ・出品内容 世界の有名デザイナーによる椅子及生活用品(展示計画は、現在進めている作品の整理状況により今後検討する。)
- ・その他 コレクションカタログを編集し、展示会中に会場にて販売したい。(販売については、本部にもお願いし協力して行く。)整理作業等、コレクション展のための応援体制としては、九州産業大学芸術学部インテリア専攻の学生さんに協力願うことになっております。会員の方でお手伝い出来ればお願いします。

連絡先 TEL 092-741-5703 岩田屋産業KK
TEL 092-512-6305 自宅

● その他

'82'九州事業支部作品展・永井コレクション展開催中に講演会を実施する。場所は会場ホール使用、講師は本部事務局に依頼し、会員にお願いしたい。

ブロック別デザイン会議

—九州・沖縄ブロック—

上記の会議に出席いたしました。以下簡単に報告といたします。

- 日時 昭和56年11月19日(木) 14:00～17:00
- 場所 福岡通商産業局(福岡合同庁舎第2会議室)
- 主催 福岡通商産業局

1. あいさつ(福岡通商産業局商工部商工課長小林秀樹氏)

国際的な経済摩擦による我国の黒字べらしの問題をか
かえ、国際的文化交流の必要性が生じてきている。中
でもデザインの重要性と、地方におけるデザイン振興の問
題が大きくクローズアップしてきている。

2. デザイン行政の現状について(通商産業省貿易局検査 デザイン課指導係長 安喰茂氏)

通商摩擦の結果、物の輸出から文化輸出の時代に入っ
て来ている。デザインを通しての国際交流の必要性から、
日本に於ける国際コンペティションをビエンナーレ形式
で開催する。58年秋の第1回開催を準備中。

3. 県におけるデザイン振興施策とその実施状況

九州各県の工業試験場、木工指導所、窯業試験場、工
芸試験所、技術指導センターの研究員、技師の方々から
いろいろの報告がなされた。中でも佐賀県におけるパッ
ケージデザインの開発(小城羊羹)、諸富家具と有田の
磁器の研究プロジェクト、長崎県の陶磁器デザイン会議
の報告と大川におけるコンパス会の活動などが興味をひ
いた。

4. デザイン振興組織からの報告

- 1) 財日本産業デザイン振興会
- 2) 財日本機械デザインセンター
- 3) 財日本インダストリアルデザイナー協会
- 4) 財日本インテリアデザイナー協会
- 5) 財日本クラフトデザイン協会
- 6) 財日本パッケージデザイン協会
- 7) 日本グラフィックデザイナー協会

の順に、それぞれの組織の内容、並びに活動状況につい
て説明があった。

5. 講演「地方におけるデザイン振興のすすめ方」

(㈸豊口デザイン研究所 代表取締役 豊口協氏)

6. 午後5時より地階食堂に懇親会が1時間程度もたれた。

(後記)

何かとあわただしく年を越し、報告が遅れました。申
訳ありません。短い時間ながらJID会員としての出席、
意義がありました。

(九州：山永耕平)

国際デザイン・フェスティバル シンボルマーク募集

(財)国際デザイン交流協会では、デザイン・コンペとデザ
イン・アワードを主な事業内容とする国際デザイン・フェ
スティバルのシンボルマークを募集中です。会員には先月
応募要領をハガキにてお知らせいたしましたが、ここに再
録いたします。奮ってご応募下さい。

〆切：57. 3. 10 必着

条件：官製ハガキ又は10cm×15cmの用紙にスミ書き。

1枚1点。1人5点まで。トレペを上につけない
こと。作品の下に簡単に意図を記入。

審査：予備審査 日本グラフィックデザイナー協会

最終審査 (財)国際デザイン交流協会

賞：採用作品 1点 100万円

準賞 5点 10万円

発表：57. 3月上旬

送付先：〒541 大阪市東区船場中央2丁目2番地

船場センタービル4号館

財団法人 国際デザイン交流協会

広報実行委員会気付「シンボルマーク募集係」

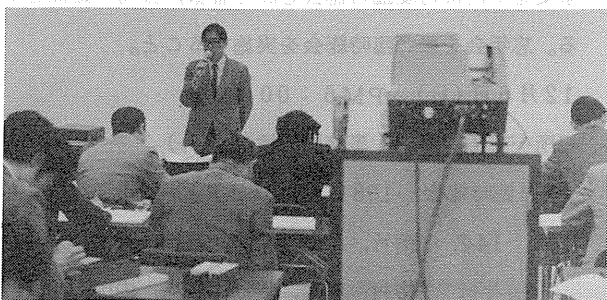
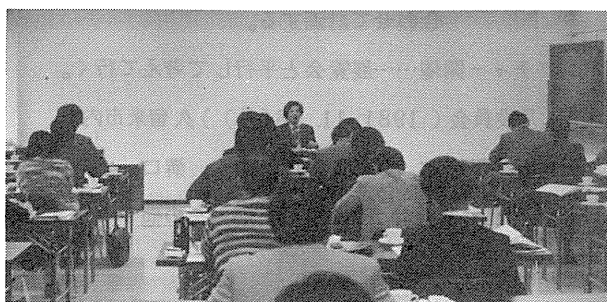
問合せ電話：大阪 06-271-5211

(事務局)

第3回インテリア産業セミナー報告

さる1月28日、29日の2日間、千代田区富士見町、日
本私学振興財団ビルにおいて、第3回インテリア産業セミ
ナーが開催されました。このインテリアセミナーは、第1
回住宅におけるインテリアの現状と今後の課題、第2回・

インテリア製品のデザイン傾向と商品潮流及び販売戦略課題と題して試みましたが、今回もこの主旨を更にディベロップしたものととして、インテリア販売店（ジェネラル・マーチャンダイズ・ストア、百貨店、専門店、インテリアショールーム）を対象に、その活性化と個性化への検討と題した店舗リニューアル講座に主眼を据えました。折しも日本インテリアファブリックス懇話会主催のジャパンテックス82やメーカー展示会等が同時期開催され、'82年商戦に向けて各販売店、メーカーとも新たなスタートを切った出鼻ではありましたものの、参加者約50名を数える盛会でありました。



現在のインテリア産業界にとってその商業環境は実に厳しい状況にあります。所得は伸び悩み、個人消費が低迷しているうえに、需要のかなりの部分を占める住宅の新増設や婚礼件数は減少の傾向にあることも売り上げ低迷の原因の1つに上げられるでしょう。ちなみに民間住宅の新設着工戸数は48年度の190万戸をピークに落ちこみ、一時150万戸前後まで回復したが、56年度は120万戸割れとなっている。婚礼数も47年の約110万組をピークに年々減少し、53年以降は80万組を切っている。このような社会背景のなかで、各百貨店の家具売場のリニューアル、売場拡巾は活発におこなわれ、その上、パルコパート3やインテリア専門館六本木アークスの新たなオープンが続いています。又、メーカーでも、ソニーの家具進出、ダーバンの参入とあわただしい。今回のセミナーの講師でもあるパルコ増田専務も言っている事ですが、小売業界は

今、非常な危機感をもっています。これまで小売業の中心商品はながい間衣料品でした。次がスポーツ用品、さてその次は何かという時にインテリア市場に注目してくるので。インテリア市場のビジネススケールは3兆6000億とも言われています。その潜在需要掘り起こしに各界とも今、歩調を絞り込んで来たのも又、当然とも言えるでしょう。潜在需要の新たな掘り起こしのために、リニューアルによる活性化と個性化は最重要事項でしょう。ここに今回のセミナーの主題と対象設定のインパクトがあったといえます。

具体的なカリキュラムと講師の方々は次のとおりです。

第1日 1月28日(木)

① 欧米における消費者ニーズの
変化と業態開発の新傾向

講師 東海興業(株) 総合開発センター室長池澤寛氏

② インテリア関連商品の展開と
今後の課題

講師 (株)伊勢丹研究所 ID研究室長 大川弁氏

第2日 1月29日(金)

③ インテリア販売店における
市場の商圈把握と管理手法

講師 アトリエ連代表、インテリアコーディネーター
石橋とみ子氏

④ 売場演出上のチェックポイント

講師 葉デザイン事務所 所長 建築家 葉祥栄氏

⑤ インテリア市場における
業態の新機軸

講師 (株)パルコ 代表取締役専務 増田通二氏

今回のセミナーを振り返って感じた事は、まず受講者については、量販店、百貨店、専門店からの参加が少なく、逆にそれら販売店に売場企画等を提案する側の企業が目立ちました。又、今回の主題は私達インテリアにかかわるデザイナーにとっても、時期を得た問題であったのですが、会員の方々の参加が少数だったことは、非常に残念に思います。同時に開催に直接タッチした側としても、媒体の有効な利用に充分さを欠いた事、開催時期の検討、日程の組み方等に多少の問題を抱えてしまった事を反省しております。これらの事を次回からのセミナー計画に必ず生かしてまいります所存であります。

今、人々は『豊かな暮らし方の規範』を求めています。インテリア産業セミナーは、これらのインパクトを背景に増々その有用性を要請されてくるでしょう。J I Dが新時代の担い手として、その役割を果たし得る有効な事業の一つになることは確かでしょう。(事業委員 海老沢宏)

「税の懇話会」報告

— 関東事業支部で開催 —

本年度で3回目を数えた「税の懇話会」が去る2月10日夕刻、下記のように開かれた。

招へい講師 山田久男氏(山田経理事務所所長、東京税理士会税務審議室委員・建築連合顧問税理士)

日頃、設計業の方々に税の上のアドバイスをされている山田講師に、兎角敬遠され勝ちでありながら、その実大層大事で節税につながる周辺などを懇話形式で解説いただいた。

出席者の中には、今年初めて確定申告に臨む方もいて、痒い所、ここが聞きたい、という個所が懇切に解説された。予定の時間を大巾に超過して閉会した。以下の資料が若干部事務局にありますので、ご希望の会員はお申込み下さい。

(03-403-3649)

- ・昭和56年度改正事業税(抄)
- ・税金の出し方、税金を返してもらう法(抄)

(関東：山品元)

尚、先月号でもご紹介いたしました、山田経理事務所は下記です。J I D会員であることを告げてご利用下さい。

顧問税理士 山田 久男氏
山田経理事務所 電話(03) 863-2200
〒103 東京都中央区日本橋浜町1-1-2
セブンスターマンション日本橋浜町702

九州支部活動報告

別項のように九州支部では、昭和57年度の一大イベントとして、「82'作品展」を今秋計画中です。それに先立ち、昨冬臨時総会、支部役員会を3回開催、その事業計画について会員が意見交換をいたしました。以下その会議の報告です。

- ・9月臨時総会(1981. 9. 19(土))福岡市美術館にて

出席8名 坂本、柴田、箴島、松岡、伊藤、菊竹、緒方、溝口

82'作品展の事業計画についての審議及永井氏コレクション展、その他(同じにレクチャー開催の件)

計画案を役員会で立案してほしい。地区委員の選出をする。北九州、大川、日田、福岡の四地区に大別。委員の選出を次回に出来るように。

出展予想……北九州2、日田3、大川(甘木、宮崎県含む)7、福岡5……最低17~20名程度の出品をお願いする。

永井氏のコレクション展……作品展と同じ会場で期日を合わせて計画する。

レクチャー開催……展覧会と平行して考えて行く。

- ・11月役員会(1981. 11. 16(月))久留米市内

出席5名 坂本、箴島、中川、山永、溝口

82'作品展及永井コレクション展、その他レクチャーの件

原案を年内に再度臨時総会を開き審議、会場の確保をする。忘年会を兼ね臨時総会を実施すること。

12月6日(日) PM6:00より~

場所……福岡市内(事務局で検討する)

- ・12月臨時総会(1981. 12. 6(日))福岡市天神ひぐち

出席 14名 菊竹、江島、緒方、石松、天本、永井、中村、石井、坂本、箴島、中川、山永、森、溝口

協議内容 82'作品展、事業計画内容及出品要項

永井氏コレクション展

その他、講演会の件

報告

支部関係……柴田氏個展(福岡9/15~20 東京11/5~17)両会場共に盛況の内に終わったとの事です。商店建築、室内、新建築、近代家具などにも掲載。

○臨時総会及役員会報告

本部関係……九州事業支部82'作品展協力依頼をし、予算その他についてもバックアップの了承を得た。

○機関誌インテリアデザイン……Profolio掲載のための原稿依頼、九州支部

より2名。

※協議の結果（石松氏と永井氏にお願いしたいという事で、本人も心よく引受けて頂きました。次回の機関紙を楽しみに！）

忘年会

会議後、鯛の活づくりや鍋料理に舌鼓を打ちながら、展覧会、仕事、会発展への道しるべなど和気あいあいの雰囲気の中に終ることが出来ました。散会 21:30
※名誉会員の大山先生より忘年会にと金一封（10,000円）を戴きました。報告と共に厚くお礼申し上げます。

尚、2月役員会（1982. 2. 22）を福岡市内で開催することとなっている。

（九州支部：坂本康四）

豊口先生の絵を頂いて

住江織物 細井 一夫

私は1枚の画をもって、すでに1時間も家の中をうろろしている。

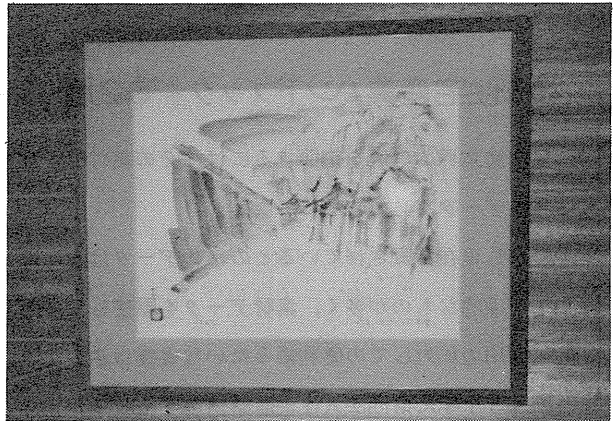
今日は日曜日で会社は休み。真冬の埼玉には珍らしく風もなく、暖い太陽が窓ガラスを通し、白いケースメントカーテンをきらきらと輝かせている。

休みの日には決ったように朝早くから騒がしい近所の子供達の声も、今日はなぜか静かで、フーと気の抜けたような朝、車の走る音も聞えない。

たいして大きくもない家なのに、さて1枚の画をかけるとなると、なかなか決心がつかない。思い直してソファの背に立てかけ、（この寝椅子風のソファは、故山岸陽氏が、25年前、高島屋のシャンブルシャルマン展でデザインされたもので、本郷の三好木工製であり、私の宝とも云える家具である。すでに2回張替えたが、良いものは長持ちするし、愛着度が高い）じーっと画を見る。画は中国の景色で、墨画に淡く4色でさあーっと、着色してある。浅学非才の私には、これが、何風の描きかたなのかは、分らないが、作者がこの景色をごらんになったとき、衝動的にスケッチブックを取り出し、さらさらと描かれた時の状況が良く分った。

画には、北京 神武門前早春 1963 克 とサイン

されている。



今年1月20日、J I D新春交礼会において、幸運にも頂くことが出来た豊口克平先生直筆の画である。

私はもともとくじ運に強い方では無く、いつでも石けんとか、ハンディティッシュをもらって帰る方で、勿論宝くじなども当たった事は無い。J I Dの女性の方が札をくばられたときも、61番の紙札をちらっと見て、すぐポケットに入れ、今年も昨年と同じように、どこかのカレンダーでも頂けるかなと思っていた。はじめから、あきらめているところが、私の良いところであって、司会者の方が「豊口先生額付の画 61番の方」と紹介されたとき、一瞬自分の事ではないように思え、ソローとあたりを見廻し、他人事の様の前に出て、紙包の画を頂いた。本当は誰にもお見せせず、このまま抱いて帰りたかった。囲りにいた方が、開けなさい。豊口先生の画はめったに頂けないから、値うちものですよ、と云われて、シブシブビニールのひもを切り、ボール紙のフタをあけた。中からは、静かな中に、ホローと、暖かみを感じられる柳の薄みどりと、土壁の紅色が目飛び込んできた。ふと、顔を上げると、温和な豊口先生のお姿が目につき、思わず、何か悪いことをして、見付かった時のように、オドオドと、先生の前に出て、どうもすみません と云ってしまったような気がする。

昨年、一昨年と、天中殺とかで、つつい控え目に過してきたが、今年は之もきれいに消え、年初からこのような幸運に恵まれた。今年日本で始めて催されたJAPANTEX '82 も三輪先生のおかげで大成功だったし、今年はきっと、良いことが続くに違いない。

豊口先生、想い出深い大切なお品、有難うございました。誌上より厚くお礼申し上げます。

J I Dの皆様、今後共宜しくお願い申し上げます。（細

井一夫さんは賛助会員・織江織物㈱の広報室課長をされている方です。)

『住宅産業ハンドブック』'82版

住宅産業界の事情を把握するには、その裏付けとなる各種データが必要となる。

しかし現在市販されているこの種のデータは応々にして一面的なものが多く、素材データを駆使して多面的に利用者に対しての便利帳みたいな書物は数少ない。

昭和51年に財団法人住宅産業情報サービスが刊行した『住宅産業ハンドブック』は、住宅産業界の実務家で企画・営業・調査に携わる方々と、その他広く住宅問題に関心を寄せる向きに対象を絞って、常時携行可能な簡便な冊子にまとめたものである。本書は毎年改良・改訂を加えて刊行したもので今回の1982年版は、その第6冊目になる。

本書の内容は、主要統計編と主要行政資料編とに分けてあり、統計編は主要な各種最新統計を紹介するとともに、地域別統計、時系列的変遷等を付加してある。これらすべて出所を明記しており、所在を知るガイドとして役立つ。国際統計はすべて最新データになっている。資料編は諸認定制度による認定リストに併せて住宅関連長期計画の概要・関連諸機関・団体名簿を収録してある。

〈体 裁〉 A5判 160頁

〈発行日〉 昭和57年2月10日

〈定 価〉 3,000円(送料実費)

なお、今回に限り定価3,000円のところ2,500円の割引きと致します。(申込は同封ハガキで)

〈購入・お問合せ先〉

財団法人住宅産業情報サービス

〒105 東京都港区虎ノ門1-23-7

第23森ビル

電話 東京03-502-8541

会員の消息

- 西川昭紀(ご無沙汰いたしております。昭和50年の入会以来、交礼会には出席しておらず毎年出席したく思っていますが、仕事上での都合がつかず、今年もまた欠席と残念に思います。皆々様によりしくお伝えください。昨年は父死去に付、何かとごたごたしております、会員の皆様にもご迷惑をおかけしており申し訳なく、もう少し時間をいただきたくお願い申し上げます。)
- 嶋佐知子(20日は千葉で講演会をしますので(日本室内装飾事業協同組合連合会)6時に間に合うかどうかわかりません。でも少しだけでも伺いたいと思います。体がいくつあっても足りないほど忙しいのです。有難いことと思います。自分の仕事の外に依頼事が多いのです。皆様もどうぞ御体御大切に。)
- ㈱フジエキスタイル 桜井照也(本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。今月は2つのイベントが重なるため例年より走り回っています。)

賛助会員ニュース

田島応用化工株式会社



東京都千代田区岩本町3-11-13

TEL 03-866-6101(内線)24-25

営業開発部/

JID担当 浅香・定・秋山



国産初のプラスチック床材の誕生

建物が人間に与える影響は非常に大きく、たとえば部屋のふんい気によって住む人の気分が明るくも暗くもなります。田島応用化工は、建築材料のなかで、近代建築及住宅建築に欠かせない床材料を製造販売しており、わが国初のプラスチック床材をデビューさせたほか高品質、多品種の床材で常に業界をリードしてまいりました。その製品は、いずれも三星印の名のもとで、一流品の声価を得ており、建築界に貢献し建築文化の向上に寄与しています。しかし当社は過去の名声と現在の地位に安住することなく、さらに輝かしい未来を築くためにたゆまぬ努力を続けています。



三星印のブランドと強力な販売体制

田島応用化工は、三星印のブランドで知られる建築材料

企業の三星グループの一員であり、タイル、繊維床材、クッションフロア、の生産において長い歴史と新しい生産設備で常に業界のリーダーとして歩んでまいりました。現在タイルの生産量は業界のトップにおり、さらにたゆまぬ研究開発と良心的な販売活動により着実な発展を続けています。東京営業所、大阪営業所を中心に札幌、仙台、名古屋、広島、博多などの営業所と、その他地方事務所による広い販売網により、施主、設計、デベロッパー、全国各地の建築会社、建材店、インテリア店 etc に宣伝、供給され、その品質の優秀さ、品種の豊富さにおいて高い評価を待っています。

現在の生産能力は、タイル類、年間1,200万㎡、長尺床材、600万㎡、接着剤類、19万缶となっています。又“技術の田島”とも言われ業界屈指の研究開発力を所有しており、日本特許5件、日本実用新案15件、その他多数の技術開発を実行しております。

★ 床材の総合メーカーとして前進！

田島応用化工(株)は、昭和27年に設立、創業を開始し現在に至っています。年間売上高、約130億円となり、今後共下記の製商品群で皆様のご要望にお答えしますのでよろしくお願い致します。

三星製品一覧表

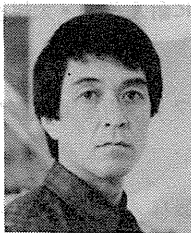
種別	品 名	特 徴
一般用 タ イ ル	Pタイル	・最も普及しているベーシックな床材 ・手入れが簡単で寿命が長い
	Mタイルソフト	・練り込まれた模様と落ち着いた色調 ・ソフトタイプの材質
	トラバーチン	・天然大理石のトラバーチン模様をエンボス ・空間になじむ落ち着いたテクスチャ
	ピサロンSM	・明るい点描タッチの意匠 ・模様が裏まで通ったスルーチップ構造 ・目地を目立たせないシームレスな仕上がり
	ピサロン・ツイード	・カラーコントロールがしやすい落ち着いた色調 ・スルーチップ構造 ・ゴムタイルのようなナメッコイ足ざわり ・シームレスな感じに仕上げる
店 舗 ・ 住 宅 用 タ イ ル	フrintタイルRE	・店舗用として実用的なエンボススタイル ・シンプルなパターン、クラシックな意匠、豊富な色柄
	フrintタイル・イージーケア	・UVクリアー(紫外線硬化樹脂)を厚く塗布してあるため、メンテナンスがしやすく汚れにくい
	フrintタイル・クラフトⅠ	・重厚な質感と格調の高さをもつ彫刻された床材 ・高歩行に耐える ・大規模店舗のコンコースに最適
	フrintタイル・クラフトⅡ	・天然素材のもつ自然さを再現した彫刻された床材 ・クラフト技術を駆使した最高級品
	スタッドタイル	・円の整列配置によるシンプルなデザイン ・ゴム材質の高級なノンスリップ床材
G P フ ロ ア	GPフロア (GH, GS, GN, GX)	・特許ガラスバック・システムによる全く新しい性能のバック材をもつクッションフロア このバック材の効果により・ピールアップ(きれいにはがす)が可能なため、貼り替えが簡単 ・寸法安定性に優れ、目地部分が反らない ・水を吸いにくいのでバックシートの膨張がない ・施工性が優れている ・家庭では置敷きも可能 ・発泡層が厚いため、遮音性に優れ、足ざわりがあたたかい ・集合住宅に最適

店舗・住宅用シート	ケミカルカーペット	・ファッショナブルな色彩と独特のパターンを豊富にもつクッションフロア ・建物や場所にマッチした品種構成 〈HU：ホームユース〉…家庭用を中心にデザインしてあるが、店舗用としても使用できる強度がある。 〈SL・DS〉……………店舗用を中心にデザインしたもの 〈NDS〉……………高度な印刷技術でつくられた店舗用 〈ECM・ECC〉……………表面に特殊樹脂を塗布してあり、汚れ防止と耐摩耗性に優れている
繊維床材	モンテック・ボン	・三色杓とHigh&Lowによる豪華さ ・素材はBCFナイロン66 ・金属繊維を織り込んだ静電気防止加工 ・汚れ防止のテフロン加工がしてある ・新防炎規格に合格
	モンテック・ユニ	・三色杓と緻密なループパイルをもつ汎用性のある繊維床材
	モンテック・プチ	・一般住宅、マンションの居住性を高める繊維床材 ・素材はアクリル系100% ・静電気が起りにくい ・新防炎規格に合格
	P・P・カーペット (P・P・C.)	・静電気が起りにくい ・防炎性にすぐれ、有毒ガスを発生しない ・裁断が自由 ・新防炎規格に合格
	P・P・C・ラバー	・P・P・カーペット (P・P・C.) にゴムのスポンジを積層 ・クッション性のよさと遮音性にすぐれている ・新防炎規格に合格

新人会員の紹介

● 新入会員

正会員

たか せ もり ひろ 高瀬 守博 (会員番号 504) 	<勤務先・事務所> 日本優良家具販売協同組合 (ジェフサ本部) 大阪府吹田市江坂町1-20-26 〒564 (06) 384-0002 <自宅> 大阪府豊中市長興寺南3-1-13 グリーンハイツ 〒560 (06) 864-3895
--	--

賛助会員

田島 応用化工 株式会社	<住所> 東京都千代田区岩本町3-11-13 〒101 (03) 866-6101 <担当者> 浅 香 平太郎
-----------------	---

●会員の移動

正 会 員

会 員 名	移 動 事 項	新
高 丸 重 信 (関 東) P55	事 務 所	コ－マルデザイン事務所 〒277 千葉県柏市戸張850-5 電話 (0471) 67-5886
宇佐美 琢 朗 (関 東) P35	事 務 所	(有)アトリエ琢 〒167 東京都杉並区西荻南1-11-9 電話 (03) 331-2625
庄 子 長 文 (関 西) P128	勤 務 先	タカラベルモント(株) 大阪市南区島之内2-13-22 (住居番号変更)
藤 井 湊 一 (九 州) P154	自 宅	〒835 福岡県山門郡瀬高町大字小川字合ノ瀬 雇用促進住宅2号4-01 電話 (09446) 3-2552
小 寺 恵二郎 (関 東) P42	事 務 所	小寺恵二郎+Assembly 5 〒154 東京都世田谷区池尻4-1-6-407 電話 (03) 412-3921~2
西 野 実 (関 西) P133	勤 務 先	筒井木工(株) 〒542 大阪市南区南船場1-3-9 (住居番号変更)
牧 野 滋 (関 東) 新	事 務 所 自 宅	(株)牧野建装 〒204 東京都清瀬市中里6-32 電話 (0424) 91-0857,0866 〒204 東京都清瀬市梅園3-2-19 電話 (0424)91-6794
徳 永 英 子 (関 東) P76	自 宅	〒203 東京都東久留米市本町2-3-1 ハイツ東久留米410 電話 (0424) 73-3860
宇 賀 敏 夫 (中 部) P162	勤 務 先	愛知(株)工場 〒486 愛知県春日井市如意申町650 電話 (0568) 31-6111

福 島 えり子 (関 東) P179	自 宅	〒 276 千葉県八千代市勝田台 3-6-21 電話 (0474) 83-3327
松 本 信 枝 (関 東) P180	自 宅	〒 151 東京都渋谷区代々木 1-1-2 電話 (03) 375-2574

ヤ マ ギ ワ (株) P217	担 当 者	あかりの相談室 室長 角 田 正 信
---------------------	-------	-----------------------

●会議

(1 月)	(2 月)	22 日 選考委員会
18 日 事業委員会	1 日 事業委員会 (予 定)	
20 日 56・第 5 回理事会 総務委員会	3 日 事業委員会	27 日 渉外委員会
22 日 ワーキンググループ	8 日 事業委員会	(3 月) 7 ~ 8 日 事業委員会
25 日 事業委員会	15 日 新理事予定者会議	23 日 56・第 6 回理事会

寄贈図書 (・印寄贈者)

・(財)住宅産業情報サービス	住宅産業ハンドブック 1982 年版	2. 9	・(株)三稜書房
----------------	--------------------	------	----------

事務局短信

- ① 2 月 15 日、総会までのおよそのスケジュールが下記のように決定いたしました。
- ・ 3 月 12 日 (金) 委員長連絡会 (新旧委員長の合同連絡打合せ)
 - ・ 3 月 23 日 (火) 56・第 6 回理事会開催
 - ・ 4 月 8 日 (木) 56 年度事業報告案、同収支決算報告書を印刷
 - ・ 4 月 26 日 (月) 総会議案書を会員に発送
 - ・ 5 月 28 日 (金) 第 14 回通常総会を東京で開催
尚、昨年度の大阪での通常総会翌日の見学会が盛況であったことから、本年も見学会、研修会のような催しを

計画してはどうか、という意見が出されています。

- ② 本文にもあるように、本年は九州事業支部で「作品展」などが計画立案中です。本部をはじめ各支部の全面的協力が望まれるところです。
- ③ 一部会員の会費延納、滞納によるため、財政状況は予断を許しません。次号には中村総務委員長の財政分析を掲載する予定ですが、特に過年度 (昭和 56 年を除く年度、即ち 55、54 年度が滞納の方) 未納の方は大至急会費納入をお願い致します。
- ④ 日本列島で 50 万人のインフルエンザ患者が記録されました。事務局にも患者が発生 (現在完治) しました。会員諸兄弟のご自愛をお祈りいたします。

(山品 元)

JID NEWS 1982/2・3 毎月 1 回発行 頒価 250 円 昭和 57 年 3 月 5 日発行 発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会	(日本インテリアデザイナー協会月報 1982 年通巻 113 号) 編集・社団法人 日本インテリアデザイナー協会総務委員会 中村圭介・川野明・増本敏治・山田晃・山下礼子・ 高田紀久枝・杉富士雄・鈴木栄二・山品元・前原誠・ 下島資子・佐藤勝・古谷悟嗣・藤川宏允 (関西) 印刷所・広洋印刷株式会社 振 替・東京 8-76389
---	--